※ジャッジとテーブルメンバーによる認識、また日本語での説明となるためニュアンスにズレ生じているかもしれませんがその点をご容赦ください。

Narrowing

松田の Narrowing によって2カンテールはスタートした。ここで松上から「Educational Law によると、Goal of education = Making personality である、そのため体罰といじめは、当テーブルのトピック外にしよう。」という Suggestion がなされた。

松田によって、松上の意図は Narrow talking point であること、体罰といじめのトピックの Advantage は生徒の精神的苦痛(m/s)に関するものであり、making personality についての議論ではないこと。、近松によって making personality の意味、松尾によってそれは、suggestion なのか、objection なのか等の点が明らかにされた。松上自身が suggestion と言っていたため、投票の結果、上記の提案は通らず終結した。

オピニオンプレゼンター(以下オピメ)には松尾、松上、新納、近松が立候補。松上は体罰をした教師には終身刑を与えるというオピニオンシートを提示、その他は体罰をした教師には懲戒免職にするというオピニオンシートであった。

→投票により松尾が選ばれる。

ASQ

新納によって、生徒が受けている体罰の状況、松上によってオピメは、現状禁止されているにもかかわらず、体罰が起こっていることを問題視していること、川端によって、m/s の性質等が Question(以下 Q)によって明らかになった。Cause での体罰の判断基準に関する doubt 等は、松尾、松田らの介入により Mandate area にながされた。

NFC

NFC では川端が objection(以下 obj)を提示した。内容は「軽い体罰は、educational achieve > m/s が成り立っており(data sentence)、そのような軽度の体罰がなくなることは、生徒と教師にとって make situation worse である。(warrant)」というものである。

結果としてこの obj の検証に一時間半近くを使うことになる。

まず松田により data の「educational achieve > m/s」を

- ①体罰に educational achieve があること、
- ②軽度な体罰による m/sは小さい

という要素に分け、それぞれを確認するための Talking point を提示する。

①では松田、松上によって、体罰には good effect があること、川端は minus effect の存在自体も認めていることが Q によりわかった。

②では、軽度の体罰とは何か、Board of education の判断によるものなのか、小さい m/s とは何かについて Q がなされた。

ここで松田のカンファメーションと川端の説明により、オピメの考える make situation better と、私の考える make situation better のどちらをとるべきか、比較したいという川端の意図が明らかにされた。

松尾による、その比較は NFC で行うべきではないという指摘、また松田による talk later にしよう、disadvantage area で再び提示しようという Suggestion を川端が認め NFC での検証は終結した。

しかし、残り時間わずかの段階で松上、新納の2人が NFC に同じく obj を持っていた。

松尾から「それぞれの説明を聞いて、それが本当を NFC 否定しているかどうかだけ確認しよう。」という発言があったが、松上から「それはロジックを同時に検証しきることができない、1個ずつ検証するために、どちらが obj を出すか公平にじゃんけんしよう！」という発言が飛びだし、じゃんけんが行われた。

結果、新納が勝利し、運命のじゃんけんを持ちかけた松上は奇しくもオブジェクションの提示に至らなかった。

新納の obj は「現状体罰は減少している(data)、よって Advantage が確認できるかわからない(warrant)」という内容であった。

川端による data への Q が始まったところで 5th2カンテールは幕を閉じた。

※ここでは、テーブルメンバーの順位となぜその順位になったのかという解説、及び、それぞれに対する所感を記していきます。

1位 松田(立教2)

常にテーブルを前へ進める意思を持ちながら出てくるアイデアに対して真っ先に介入し、誰よりもテーブルの推進に貢献した点を評価し、1位としました。

特に Narrowing で松上が出したアイデアや NFC のアイデアに対して相手の論点をふまえた S を行い、話の収束に貢献していました。また、1位を取るという強い気持ちがテーブルメンバーの中で一番伝わってきました。

しかし、ひとつひとつのアイデアに時間がかかり過ぎてしまったことや、思い通りに議論が進まない時に焦りからか一人で話を収束することができなくなっていたところは今後の課題となるでしょう。

アッセンでは、春セミが終わった時に言っていた“自分のやりたい Dis”で勝てるように、自分が納得できるディスカッションが出来るように頑張るね！応援しています😊

2位 松尾(AGU2)

OPとして適切な QA を行い議論の土台をつくったこと、落ち着いた介入でアイデアプレゼンターの意図をくみ取ろうと多々Qをしていたことを評価しました。

OPとして Answer や介入の判断をしており、テーブルメンバーに対しても柔らかい雰囲気です。終始議論の進行をしていたことが良かったです。

ただし、自身の介入で最後まで議論を推進する力が弱かったことが1位との差に表れてしまいました。また、NFCで終わってしまいコアであった comparison でのアイデア検証ができなかったことも悔やまれます。今後は相手の意図を組むだけでなく、話し方の提示を行い、タイムマネジメントを意識して議論を推進していくことが課題として挙げられます。

落ち着いた介入と相手に寄り添う力を武器にアッセンも上を目指して頑張るね😊

※ここで3~5位はほとんど差がなく、1回の有効な介入で順位が変わることを伝えておきます。

3位 川端(立教2)

OPの意見を引き出すためのQを中心に介入していたこと、NFCでのアーギュを通して自身のアイデアを提示していたことを評価しました。

NFCのアーギュをディスカッションの中でどう話したいのかしっかり考えられていて、自身のスタンスが終始ぶれていなかったことは良かったと思います。

しかし、時間切れ(NFCで3時間が終わってしまったこと)が原因で自身の提示した話し方で検証できなかった点から、今後は話し方の提示だけではなく実際に議論ができるだけのタイムマネジメントや介入の量を増やして積極的なパフォーマンスをしていくといいかなどと思いました。

まだまだたくさん伸びる余地があるので頑張っね！更なる活躍を願っています☺

4位 新納(獨協2)

NFCにて、アーギュメントを通して自身のアイデアを提示した点を評価しました。

前半は他者の話にも介入し、相手の発言の意図を積極的に組もうとしていた姿勢が見られた点も良かったです。

しかし、中盤以降は介入が少なくなってしまう、せっかく提示したアイデアも十分に検証がされなかったことは惜しかったです。今後は自身の役割をみつけてコンスタントに介入を行い、オーソリティを構築することやどうすれば自分の話にテーブルメンバーを引き付けられるか工夫することが改善点になってくるでしょう。

思い通りにいかない時こそ落ち着いた介入を心掛けて頑張っね！インナーの人数が少ない弱みがわかるからこそとつても応援しています☺

5位 松上(明治2)

Narrowing や ASQ で積極的に自身のダウトを提示した点を評価しました。

独自の視点で鋭い意見を常に提示しており、自身のペースを崩さずに議論を行っていたこと、真顔でユーモアのある発言をしていたことが印象的でした。

しかし、自身のダウト提示にとどまり、アイデアの行き先が不明瞭であったために議論をやや停滞させてしまったことや他者への介入がほとんど無かったことが今後の課題に挙げられます。

春セミの2カンのジャッジでこんなに笑いが起きるとは思っていませんでした。そしてプレパ次第でもっと上に行けると感じました。今後も自身の頭のキレとその素直な心を忘れずに上を目指して頑張っね！応援しています☺

6位 近松(武蔵2)

介入が限定的であったためこの順位となりました。

介入があまり無かったことはとても惜しいけれど、ASQ で一回介入した際のプレゼンとチャートは分かりやすかったので、それを武器にして Narrowing の段階から積極的に QCS をして自分の立ち位置を確立できていたらもっと順位が変わっていたはずです。今後は、個人の視点だけではなく今何がテーブルに必要なのか考え、ガツガツした雰囲気の中でも自分の役割をしっかりと見つけて怖がらずに介入していきましょう。

2カンで見ることができ嬉しかったよ。でももっとできるね！自分の武器にこれから更に磨きをかけて、アッセンも上を目指して頑張るね😊

磯貝：

僕からは3つ！

テーブルの内容に関しては、このテーブルでは一つ一つのアイデア(主に NFC)に多くの時間を割くことになりました。ここで振り返ってほしいのは、検証に時間がかかってしまったのか、それとも時間をかけたのか、ということですね。おそらく前者だと思います。

みんな vague word の意味を詰めていく、という基本を逃していないのは、すごくいい点でした。しかしその意味を詰めた先に、ロジックの検証がどう変わるのか(いわゆる effect)を提示するに至らず、単発の Q の積み重なっていたところが、時間がかかってしまった最大の要因だと思います。その意識を常に持つことが上達のカギだと思うので、これからのプレパでは忘れず意識してほしいです！

2つ目は実行してる人も多いかもしれないけど、総評ってプレパチャンスの宝庫です。3時間テーブル組まなくても他の人のアイデアとか、検証の仕方とか知れる機会がなので、自分ならどうするだろうって考えてみるだけでめちゃくちゃ役立ちます。今年ランクとった後輩も口をそろえて総評読んでました！っていったので是非他のテーブルも読み漁ってみてください。

3つ目は僕はジャッジをし始めたときから2カンみたい！ってずっと言ってました。理由は僕も2年前2カンにいたからです。そこでランクとれなくて、春セミ終わった後めちゃくちゃ悔しくて、そっから必死こきました笑。みんながこのテーブルでどう思ったのかわからないけど、少しでも頑張ろうって気持ちを持てたのなら忘れてほしいです。みんなが書いてた「2カンから下剋上」期待してるよ！

佐宗：

みんなお疲れさまでした！ディスカッションについては選定理由に書かせていただいたので、ここでは本当にただ伝えたい想いだけを書こうと思います。

初めての春セミどうでしたか？2カンに入りたい、あの同期には負けたくない、先輩に恩返しをしたい、、など様々な想いを持ってこの春セミに臨んだと思います。その想いは叶いましたか。思うようにいかなかったことも多かったのではないのでしょうか。長々とえらそうなことを言ってごめんなさい。でも最後にみんなに2つのことを伝えたいと思います。

1. 今年の春セミで感じたことは決して忘れないでください。

今回それぞれが感じた想いは、きっとこれからのみんなのディスカッションライフにおいて大切な原動力になります。やりたいように出来なくて悔しかった想い、テーブルメンバーやジャッジに褒められて嬉しかった想い、全てを糧にして次のアッセンや来年まで駆け抜けていってください。

2. 考え続けることをやめないでください。

正直私は3年生から本気でディスカッションに向き合いました。どうしたら上手い同期に近づけるか、どうしたらもっと良いディスカッションができるか考えて考えて考えました。考えることを続けるとディスカッションがもっと面白く感じるしもっとやりたいことが出てきます。みんなはまだ2年生です。まだまだやれます成長できます。この先のアッセンや春セミでみんなが笑顔で終われることを心から願っています。頑張れ！！